



2016 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦

SUGO SUPERBIKE 120 miles ENDURANCE RACE

TOHO Racing レースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

6月25日(土曜日) 天候：曇り 路面:ドライ

公式予選／1' 28"051 6番手

6月26日(日曜日) 天候：曇り 路面:ドライ

決勝／7位 (23周)

開催地:宮城県・スポーツランドSUGO

入場者数:5,700人 (土・日合計)

今回のシリーズ第5戦SUGOラウンドでシーズン折り返しとなる全日本ロードレース選手権。第4戦オートポリスが熊本地震の影響で中止となったため、第3戦ツインリンクもてぎ以来のレースとなった。前週には、事前テストが行われたが、ちょうど梅雨入りとなり、満身にドライコンディションで走ることができず、思うようにマシンセットを進められずにレースウィークを迎えていた。

金曜日朝から霧雨が降り、路面はウエットから徐々にドライになって行くコンディション。JSB1000クラスの1本目は、ウエットパッチが残っていたが、ほぼドライコンディションとなっており、マシンをセットアップして行く。2本目では、1分28秒587をマークし3番手と、まずまずのタイムだったが、マシンに問題が発生していた。この問題を解決するために、考え得るパーツを取り替え、チームスタッフは夜中まで作業し、土曜日の公式予選に備えた。



公式予選は、1時間の計時で行われた。まずは、マシンの状態を確かめながらピットイン・アウトを繰り返す。セッション終盤にタイムアタックに入ると1分28秒051をマークし、Honda勢最上位の6番手グリッドを獲得した。しかし、マシンの問題は、完全に直っておらず決勝に向けて不安要素を抱えながら土曜日を終えていた。

日曜日は、いい天候となり暑い一日となった。今シーズンの初戦となった鈴鹿ラウンドに続き、セミ耐久だけにマシンにライダーが駆け寄るル・マン式スタートでレースは始まった。好スタートを切った山口は、5番手で1コーナーに入っていく。そのままオープニングラップは5番手でホームストレートに戻ってくるが、2周目に1台にかわされ6番手に、3周目には、1台にかわされるが、1台をかわし6番手と変わらず。1スティント目は、そのまま6番手をキープし周回を重ねて行くが、やはり初日から抱えていた問題が悪化してくる。そして28周目にピットインするが、リアタイヤの交換に戸惑ってしまいタイムをロス。コースに戻ると10番手までポジションを下げってしまう。ただ、その時点で、まだピットインしていないライダーもいたため実質は7番手となっていた。周回を重ねるとポジションを上げるが、目の前にピット作業のタイミングで前に出られたライダーが現れる。これをかわしたい山口だったが、マシンの状態が悪く、一時はリタイヤも考えたほどだった。それでも、最後まであきらめずに120マイルを戦い抜き7位でチェッカーフラッグを受けたのだった。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「いつも多くの応援ありがとうございます。今回は、金曜日から僅かなトラブルを抱えてしまい、その原因を追及するためにチームも夜遅くまで作業してくれましたが、決勝が一番厳しい状態でした。SUGOのセミ耐久レースは、ここ3年、完走できていなかったのが、今回こそ完走しようと最後まで諦めずに走りました。やっとドライで走り込めたので、鈴鹿8耐に生かして、いい結果を出せるように全力で臨みます。引き続き応援よろしく願いいたします」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「事前テストからドライの走行が少なく、うまくセットアップを進められなかったですし、ピットワークも課題が残りました。7月上旬から始まる鈴鹿8耐に向けたテストで、KYBさんに協力していただき、いいマシンに仕上げたいですね。それがシーズン後半戦にも間違いなく生きてきますから。プライベートチームでも再び表彰台に上げられるように最大限の努力をしていきます」

総監督 福間勇二コメント

「この大会も天候に恵まれず、事前テストの段階からドライで十分な走行が出来ておらず、また、レースウィークのマシンの状態も厳しいレースとなりましたが、ライダー、スタッフとも最後まで粘り強く全力で戦いました。この経験とデータを鈴鹿8耐に活かし皆様によいご報告が出来るよう頑張っ参ります」



株式会社TOHO
TOHO Racing
担当：野口